

関連文化財群

地域に存在する様々な文化財を、歴史や関連性に基づき洗い出し、とくに地域の歴史文化の特色を物語るまとまりを抽出します。本構想では以下の5つのテーマを設定し、テーマに適合する文化財のまとまりを関連文化財群とします。それを総合的に保存・活用することにより、個々の文化財の価値をさらに高め、魅力あるまちづくりへの貢献が期待できます。



| テーマ名 | ストーリー | 構成する主な文化財 | 所在地など |
|-------------------------------|---|---|--|
| 石器づくりの大遺跡群 旧石器時代 | 安山岩を加工した大型尖頭器の一大生産地である旧石器時代の遺跡群が発見された。 | 遺跡 出土品 石材 | 多久町下鶴 東の原 中野 など |
| 多久領主の文化遺産 鎌倉時代～明治初期 | 多久氏(前多久、後多久)は合わせて680年間、この地を統治し領民に多大な影響を与え、その政治・文化施策による多くの文化遺産が存在している。 | 神社 寺院 城郭跡 武家屋敷 館と城下 往還 文書資料 石造物 郷土芸能 祭り 伝説 | 多久町東の原・西の原 南多久町西ノ谷・中小路・ 庄・桐野 東多久町別府 北多久町多久原 など |
| 儒学を中心とした 里づくり 江戸時代中期～現代 | 後多久4代領主茂文による儒学に基づく文教の里づくり。孔子の教えは、現在にも継承されており、中核をなす聖廟は多久市の象徴となる。 | 廟 小中学校 祭り 伝説 文書等資料 | 多久町東の原 多久町西の原 など |
| 旧往還の沿道景観 主に江戸時代～現代 | 古代の官道から発展し、江戸時代には宿・駅が設けられ整備された唐津往還、伊万里往還の沿道には、伝統的な民家などによる独特の景観をもつ。 | 往還 農家 商家 堂 石造物 農地 番所跡 伝説 | 東多久町別府 北多久町多久原 西多久町宿・板屋下 など |
| 炭都・多久 江戸時代後期～昭和40年代 | 江戸時代後期から採掘された多久の石炭。昭和時代の最盛期、炭都・多久と呼ばれ一大供給地となったが、昭和47年に最後の炭鉱が閉山した。石炭産業は、近代多久に大きな貢献を果たした。 | 炭鉱関連施設 寺院 まちづくり(道路・鉄道 ・炭鉱住宅など) 地名 | 東多久町古賀 北多久町砂原・中山 など |